

産婦人科

千葉県北総地域の基幹病院であり、また千葉大学研修プログラムの関連施設として当科では様々な産科婦人科疾患を数多く経験することができます。産婦人科は、【周産期領域】、【婦人科腫瘍領域】、【生殖内分泌領域】、【女性のヘルスケア領域】の4領域からなり、そのうち【周産期医療】および【婦人科腫瘍領域】が当院の2本柱となっております。それぞれの分野について当院の特色を説明します。

【周産期医療】

平成24年度に地域周産期センターの認定を受けました。NICUを併設しており、成田市を含む印旛および隣接医療圏における周産期医療の中核をなしております。分娩数は、出生数の減少に伴い当院でも減少傾向ですが昨年（令和7年）は355件となっております。母体搬送は昨年（令和7年）は83件の受入れとなっております。早産受け入れは妊娠24週以降（NICUの受け入れ体制により週数が増えることあり）です。母体合併症や産科合併症のあるハイリスク症例が多いため、帝王切開症例が多くなっております（R7年 191件、53.8%）。研修では、産科超音波検査、分娩介助、帝王切開の助手などをしていただきます。また産婦人科志望の研修医は到達度により帝王切開の執刀も行います。

【婦人科腫瘍領域】

子宮筋腫などの良性疾患から子宮ガン、卵巣ガンなどの悪性疾患まで様々な疾患の治療を行っております。婦人科手術は毎年350件前後（令和7年336件）です。婦人科悪性腫瘍手術は、毎年50件前後（令和7年45件）です。良性疾患に関しては、年々、開腹手術から腹腔鏡手術の割合が増加しております（令和7年 良性開腹手術 91件、腹腔鏡手術 168件、子宮鏡手術 12件）。また、令和3年より、ロボット支援手術も開始しました（令和7年 14件）。手術に関しては、積極的に助手として携わっていただき、基本的な手術手技を学ぶことができます。また、手術患者を主治医とともに受け持つことで周術期管理を学んでいただきます。

【生殖内分泌領域】、【女性のヘルスケア領域】

月経不順、月経困難症や更年期障害などの婦人科疾患を主に外来診療に携わることで学ぶことが出来ます。



第一産婦人科部長

小幡 新太郎

日本産婦人科学会専門医、日本産婦人科学会指導医
日本産科 婦人科内視鏡学会技術認定医
母体保護法指定医、NCPR（新生児蘇生法）
周産期新生児医学会指導医、専門医（母体・胎児）
厚生労働省医政局長認定臨床研修指導医

01 研修期間

1年以上、応相談

02 目的

- (1) 日本産婦人科学会専門医取得に必要な症例を経験する。
- (2) 外来診療、入院診療、救急症例、手術を通して、産婦人科診療に必要な知識や技術を身につける。

03 研修システムの特徴

- (1) 外来を指導医のもとで担当し、外来診療の経験を通して基本的な知識、診断、治療を身に着けることができます。
- (2) 手術にも積極的に入ることで、基本的な手術手技と婦人科解剖を習得できます。
- (3) 救急の初期対応を数多く経験することができます。
- (4) 産婦人科研修終了時には、経験症例の発表と研修中に出された課題についてそれぞれ発表していただきます。

04 取得可能資格

学会名	取得可能資格	学会の研修施設等指定・認定状況
日本産婦人科学会	産婦人科専門医	日本産婦人科学会専門医制度 専攻医指導施設
日本周産期・新生児学会	周産期専門医 (母体・胎児)	周産期専門医(母体・胎児)認定施設
日本婦人科腫瘍学会	婦人科腫瘍専門医	婦人科腫瘍指定修練施設
日本産婦人科内視鏡学会	腹腔鏡技術認定医	日本産婦人科内視鏡学会認定研修施設
日本女性医学学会	女性ヘルスケア専門医	日本女性医学会認定研修施設

05 研修期間中に経験する病態・疾患・習得すべき手技

- 産科症例(妊娠高血圧腎症、常位胎盤早期剥離、前置胎盤、子宮内胎児発育制限、糖尿病合併妊娠などの合併症妊娠など)
- 婦人科症例(子宮筋腫、卵巣嚢腫などの良性疾患、子宮ガン、卵巣ガンなどの悪性疾患、月経不順、不妊症などの内分泌疾患など)
- 手術(帝王切開、流産手術などの産科手術や子宮摘出、卵巣摘出などの婦人科手術)
- 分娩(分娩介助、胎児心拍モニタリングなど)